

会 議 録

| | | | |
|----------------|---|---|---|
| 会議名 (審議会等名) | 平成 30 年度第 3 回小金井市廃棄物減量等推進審議会 | | |
| 事務局 (担当課) | 小金井市ごみ対策課 | | |
| 開催日時 | 平成 30 年 8 月 28 日 (火) | | |
| 開催場所 | 中間処理場 事務所棟研修室 1 | | |
| 出席者 | 委員 | <出席者：12名> 岡山会長・溝入副会長・大江委員・石田委員・石原委員・星野委員・土屋委員・齋藤委員・多田委員・波多野委員・林委員・岸野委員 <欠席者：3名> | |
| | 事務局 | 小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・大久保・高田・信岡・前坂・武田・高花 | |
| 傍聴者の可否 | 可 | 傍聴者数 | 1 |
| 会議次第 | 1 開 会 (1)会議録の確認 (2)意見・提案シートについて 2 報 告 (1)燃やすごみ処理量の昨年度との月別比較について(平成 29 年度～平成 30 年度) (2)平成 30 年度可燃ごみ処理の支援状況について 3 その他 小金井市災害廃棄物処理計画の策定について | | |
| 会議結果 | 別紙審議経過のとおり | | |
| 提出資料 | 別添のとおり | | |
| その他 | | | |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|--------------|---|
| 岡山会長 | これより平成30年度第3回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。 本日の欠席委員については、堀越委員、山田委員、黒須委員より欠席の連絡が入っている。 それでは、本日の配布資料について、確認をお願いしたい。 |
| 大久保減量推進係長 | (配布資料確認) |
| 岡山会長 | では、前回の会議録について確認する。前回の会議録は事前にメールで送付されているが、意見・修正があれば申し出ていただきたい。 特に無いようであれば、公開手続きに入る。 では、次に意見・提案シートについて説明を求める。 |
| 大久保減量推進係長 | (「意見・提案シート」について説明) ※検討の結果、活用については継続協議となった。 |
| 岡山会長 | では、本日提出された資料について事務局から報告をお願いしたい。 |
| 大久保減量推進係長 | (資料「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について(平成29年度～平成30年度)について」説明) |
| 藤田ごみ処理施設担当課長 | (資料「平成30年度可燃ごみ処理の支援状況について」説明) |
| 岡山会長 | 何か質問等はあるか。 それでは「小金井市災害廃棄物処理計画について」事務局から説明をお願いしたい。 |
| 小野ごみ対策課長 | 今日、これからコンサルティング業者から災害廃棄物処理計画について説明を行うが、交通事情で少し遅れているようなので、到着するまで私の方から何故小金井市がこういう計画を作ろうとしているか説明をさせていただく。説明に不足がある場合は、会長に補足をお願いしたい。 |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|----------|--|
| 岡山会長 | ちょうど昨日、西日本水害の報告をしたばかりのため、それを基に説明したいがよろしいか。 |
| 小野ごみ対策課長 | ぜひお願いしたい。 |
| 岡山会長 | <p>7月上旬に西日本で広域に渡って水害があった。7月14日、15日に岡山県倉敷市、総社市、高梁市、7月29日、30日には愛媛県大洲市、宇和島市に視察に行った。基本的には仮設トイレの利用状況を見に行ったのだが、ごみの研究者としてごみの状況も確認してきた。</p> <p>そもそも災害ごみとは、産業廃棄物ではないので家庭ごみと同じである。どこから排出されたごみだとしても、竜巻や豪雪、豪雨、洪水等々から発生したあらゆるものが災害廃棄物であると定義されている。これらは一般廃棄物であるため、基本的にその自治体が処理しなくてはならない。ただし、全てを自力で処理できないという場合には、国から補助が下りることもある。</p> <p>災害が発生すると当日から色々なことが始まる。例えば水害であれば、水が引いた途端に片付けごみの排出が始まる。</p> <p>災害対策本部が立ち上がったところから避難所が開設される。地域防災計画の最初に避難所が書いてあるが、ごみの排出もそこから始まる。</p> <p>仮置き場の設置を最初にしてあるが、これの初動が一日遅れただけでもしばしば大変な混乱が起こる。</p> <p>緊急時の災害廃棄物の対応としてすぐに開始しなければならないのは、道路を確保することであるが、これは国土交通省が実施する。</p> <p>避難所からの生活ごみもすぐに排出される。トイレの問題についても、すぐに対応を開始しなければならない。東日本と熊本での災害で調査したときに、災害が起こってからどのくらいでトイレに行きたくなったか調査すると、6時間以内に73%の人が行くという結果がでていた。つまり、し尿は災害発生後6時間で対応が必要となる、一番すぐに生じる問題である。また、被災したごみは夜明けとともに排出される。</p> <p>災害廃棄物の対応というのは、そういった素早い対応が求められるが、そのために事前に計画を立てておくことがとて</p> |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|--|---|
| | <p>も大切である。どういう災害が起こりえて、ごみ処理をどう対応するのか、事前に決めておくことがとても必要だ。にも関わらず、災害廃棄物計画には国のガイドラインがあって、その雛型をそのまま転用したような計画が多い。しかし、それを作っただけで満足してはいけない。これを作ったことで事前にどういうところとこういう連携をしてどう備えるのか、市民も行政も確認しておくことが一番大切である。</p> <p>一部事業組合でごみ処理をしている場合の過去の事例では、災害を起こったときには取り決めがなく、契約が普通の生活ごみだけだったため、一番被害が大きかった市の災害廃棄物の受け入れはできない、ということもあったようだ。</p> <p>仮置き場とは、行政が設置するごみの仮置き場である。なので、災害が起きたら開設するのだが、設置場所によっては、持って行くだけで大渋滞が起こるため誰も持って行かなくなる。また、満杯になってしまうと捨て場所に困り、空いているところへ置き始める。我々研究者はこれを勝手仮置き場と言う。水害の場合の廃棄物は重いので、取り敢えず自分の家の前へ出すが、やはり自宅前は嫌だということで、自分の家とは少し離れたところへ捨てる。道路脇に詰まれる。それは、どの災害でも同じで、東日本のときもそうだった。2000年東海豪雨のときは、道路を塞いでしまって緊急車両が入れなくなってしまうため、車両部を空けて積まれていた。泥が多い場合は、そのまま焼却できないため厄介である。</p> <p>次にし尿ごみだが、今回見たところでは、電気も水も止まっているので、トイレの水が流れない。トイレに袋をかぶせてごみとして処理する方式について確認してきた。これは、東京都、特に23区においては有効で、水がこない、電気がこない、トイレが流れない、でも高層で家自体に被害はない。そういうときには、ビニール袋を被せて、固化剤入れて固めるのが有効だろうと思う。ただ、可燃ごみとして収集して大変なことになった例もある。固化剤は、ジェル状になるだけなのでパッカー車に入れるときに垂れてきてジェル状のし尿を清掃員が浴びてしまうことが起こった。これは改善が必要だと思っている。マンションでは、それは嫌なのでし尿だけ分けたところがあったらしく、そこはパッカー車ではなく平ボディ車で回収したかったが、車が全て出払ってしまった。</p> |
|--|---|

(審議過程) 主な発言等

私が行ったときは災害が起きた1週間後だったが、し尿処理棟と焼却工場、破碎工場は同じ敷地内であって、全部被災した市もあった。復旧の目途が立たなかったが、仮置き場の設置が大変速く、川の堤防上のグラウンドも被災したが、養生して仮置き場にした。何故、そんなに速かったかというと、雨が降っている最中にたまたま営業に来ていたコンサルタントが指導した。廃家電、不燃ごみ、コンクリート、木屑、可燃ごみ、土砂、土嚢という形で管理・運営されている。入り口には誘導員がいて、レイアウトが決まっていて、ドライブスルー方式で落としていく状況である。こういう仮置き場をすぐ設置できるのが望ましいが、敷地面積が必要であり、小金井市でこの面積をどこに確保できるのか考えることが大切である。

トイレの優先順位について、緊急時に電気も水もないときに人はどうするか。仮設トイレは、優先順位が低い。屋外にあるので外に行かなければならない。夜や雨の日は行きたくない。女性にとって危ない場所でもある。また、仮設トイレは臭い、汚いで大変不評である。よって、自宅のトイレが一番多く、水がなかったら、給水車から水を汲んできても流して使いたい。しかし、マンションでは水を持って上がらなければならない。給水バッグは1袋3リットル3キログラムである。トイレを1回流すのに10リットル必要だ、と考えるとトイレは大変労力が掛かる。そのため、自宅のトイレは高層階になった途端、急にできなくなる。携帯トイレも不評だったが、この辺を使わなくてはならない。

災害ごみのまとめに入るが、震災ごみは家が潰れてしまっているなど危険なので基本的に人はあまり家に入らないが、水害ごみは重くて、泥が入っていることもあり、車両が無いとどこまでも運べないため、すぐに勝手仮置き場へ出される。これは妨げられない。よって、行政としては、そうなることを見越しておいて、そこから仮置き場にどう分別して置くのか、最初から仮置き場に搬入した人には最初から分別してもらうという事を開設した途端にやらなければ、一度混合した途端に分別が終わってしまう。とにかく初動が大切で、行政は完全に人員不足になる。清掃部署の職員は1ヶ月間家に帰れない。人も足りない、車両も足りない状態になってくる。

(審議過程) 主な発言等

| | |
|-------------|--|
| | <p>また、アウトソーシングが重要で、いかに行政が自分でやるのではなく、ある部分において広報は誰、何々は誰としておくことが重要であり、そのためには、事前の協力体制を作っておくことが大変重要だ。</p> <p>私が提案したいのは、市役所OB、特に清掃OBを積極的に予備役とする体制をとっておくことが重要だと思う。</p> |
| 石阪中間処理場担当課長 | <p>集積と仮置き場という言葉があったが、基本的にどう積み分けするのか。集積は取り敢えず出たものをまとめておいて、仮置き場は分別したあとの置き場という位置づけか。</p> |
| 岡山会長 | <p>仮置き場は、分別場としても考えても良いのではないか。分別を行う集積場である。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>それでは、コンサルタント業者である株式会社日本環境工学設計事務所の方が到着されたので、担当の方に説明をお願いしたい。</p> |
| コンサルタント | <p>(「小金井市災害廃棄物処理計画について」説明)</p> |
| 岡山会長 | <p>何か質問等はあるか。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>災害時を我々は経験していないが、小金井市が被災するという事は小平市や国分寺市などこの当たり一帯が被災することになる。重機や人手が足りなくなったり、道や空き地などにごみが散乱したり、分別されていない生活ごみが瓦礫の中に入っていると夏場には虫が発生して、感染性の病気が発生する可能性がある。更に、人員体制でいうと、今、小金井市の職員数は以前に比べ減っている。かつ、ごみ対策課の職員は市内でも比較的人数が多いが、地域防災計画の中では、避難所の運営に出ることになっている。しかし、災害ごみの対応は緊急を要することから、この計画を作っていくことで地域防災計画だけではなく、災害廃棄物処理にもごみ対策課の職員を配置する必要があるということになる。現在、他市も災害廃棄物処理計画を作り始めている。計画を作るだけでは意味がないため、いつ起こるか分からない災害に向けて毎年</p> |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|----------|---|
| 岡山会長 | <p>訓練を重ねつつ、いざ災害が起きたときに「何をしたら良いか分からない」というようなことが無いようにしなければならぬことから、計画を作ることにした。</p> <p>計画ごとなので、小金井市廃棄減量等推進審議会の皆さまに諮問させていただき、最終的に答申いただく形になる。より実効性のある計画作りをしていきたいと考えているため、どんなことでも良いのでご質問等があればお願いしたい。</p> <p>立川断層、多摩地震の場合、仮置き場の必要面積はどの位か。</p> |
| コンサルタント | <p>まだ、そこまで計算できていないが、多摩地震の方が被害が大きいのので、広い面積が必要になると思う。</p> |
| 波多野委員 | <p>小金井は道が狭く、大雪のときに商店会で雪掻きをしても置くところがない。その雪を軽トラックに積んで、公園などに置かせてもらおうと助かるという話を商店会の人たちと話した。例えば、雪は解けるので野川に流しても大丈夫な可能性があるが、小金井市の場合、瓦礫などを目の前の路肩などに出すのも難しいと思う。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>現時点で我々が考えているのは、全ての空き地について、一旦は瓦礫置き場になる。そして、分別して他のところへ移していくことになると思う。というのも、高齢者が非常に多く、遠い瓦礫置き場へは持っていけないので、すぐ近くのところに出す形になることをイメージしている。しかし、それはあくまでもイメージであり、それについては、これから計画を策定していく中で決めて行かなければならない。</p> |
| 石原委員 | <p>陸前高田で2年間ほど手伝っていた。基本的に災害の規模の設定のしかたと、水害に関して、小金井市には国分寺崖線があり、以前大雨が降ったときも、崖線の上は何でもなかったのに下は水がはけず、どうしようもなかったということがあった。水害に関しては、小金井市は起こりにくいと思っているが、ありえないことではないわけだから、そうすると崖線の上と下では瓦礫の出る量も随分違うので、その辺の想定</p> |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|----------------|--|
| <p>石田委員</p> | <p>の仕方をきちんとやっておくべきである。</p> <p>私もそれは気にしている。いま説明されたのは最悪のケースの想定であって、啓蒙の意味はあるが、解決できないレベルの災害が起こったときの説明をしている。市の中である程度解決できるようなもの、多摩地区の広域で対処できるもの、東日本のように絶望的に大きいものの三つくらいに分けて考えた方がよい。カテゴリーに分けずに、やみくもにできないような前提のものばかり考えてしまうと、後ろ向きの回答しか出てこない。恐らく対応できるような災害の方が、数が多いだろう。体系的、論理的に考えていかなければならないと思う。</p> <p>災害の話をしているとどうも情緒的な話が多く、論理的に解決していないように思う。放射能の対応にしても、津波に対してもそうである。きちんとカテゴリーに分けて、レベルに合わせて、幾つかのパターンを用意しておくべきである。</p> <p>最悪、対応できないケースもあると思うが、そのときは「どれだけ被害を小さくするか」という考え方も大切だ。完全対応できるレベルとそうではないレベルに分けて計画を練っていただければ良いと思う。</p> |
| <p>コンサルタント</p> | <p>実際に、レベル1、レベル2といったカテゴリー分けして作成しているところもあるが、それ以下のものになると通常の業務で処理できる範囲で、という曖昧なところも出てくるので、その辺も検討したい。</p> |
| <p>岡山会長</p> | <p>国は大規模災害しか想定していない。どうしても指針がそうになっている以上、大規模災害を想定して計画を策定するのは仕方がないことだが、先ほどから話が出ていたように、いろいろ議論しても、自分の地域に持ち込んで地域防災力に落ち着いたところにくる。共助が一番自分のためになる、という事に落ち着くものである。体制を作っていくのもこの計画の中でできればいいと思う。風水害の他に雪害や竜巻なども結構出る。大規模でなくても、いろいろな規模を想定はしておいた方がいいと思う。気候変動も大きくなっているので、東北では普通のことだが、除雪について東京都でも必要にな</p> |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|-----------------|---|
| <p>林委員</p> | <p>ってくるかも知れない。</p> <p>コンサルタントの方に原案を作っていて、それを諮問されてこの場で審議する。スケジュール的には10月から来年1月まで4回審議会で審議して答申を出すことのようにだが、これからどのような形で進められるのか。今も出ているが、基本的な災害の規模なり、ケースなり、そういったことに対する議論はこれから先できるのかどうか。一つの文書が出来上がって我々に提出されたときには、こういう前提で、例えば「7～8万トン、戸数にすると725棟が全壊した」というごみに対してどういう計画を立てるのか、場所としてはこの辺を想定している、そのための行政組織の体制として緊急時はこういう体制を取ろう、というものができのうと思う。それからスタートすると、初めから条件ありきである。我々に4回くらい議論するように言われても、基本的に今までのやり方からいくと、諮問されたものの字句訂正をして答申する形になるのではないかと心配している。それでいいのかも知れないが、出てくる元のものがあるのか気になる。そこで、やり方を考えていただけないかと思う。行政がやることと、市民目線で考えて欲しいことが項目別にリストアップされれば、それに着目して意見を審議することができるのではないか。</p> |
| <p>小野ごみ対策課長</p> | <p>行政として計画の素案をコンサルタントの方に意見をもらいながら作るのだが、皆様に追認していただくことではなく、市民としてどういう関わりができるかという事を計画の中に盛り込んでいただきたい。行政としてはこういう事を考えていて、市民としてはこういう事ができるのではないかという事を入れていただければと思っている。しかし、実際そこまでできるかどうか分からない。例えば想定被害数だが、我々が想定しているのは、地域防災計画に書かれていることしか想定できないので、地域防災計画に書いている被害状況によって、ごみがどれだけ排出されるかという事を想定せざるを得ない。最大限の被害という事でしか想定できない状況の中で、我々としては、この人員の中で、これだけの仕事をやっていく、それに対して、こういうところを瓦礫置き場に</p> |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|----------|---|
| 林委員 | て、生活ごみはこういう風に出して欲しいという啓発部分についても計画の中に盛り込んでいきたい。また、市民として日々、こういう事に注意して欲しいという事があればお聞きしたい。 |
| 小野ごみ対策課長 | 計画の性質からすると、審議会で審議するものではないと思うのだが。 |
| 小野ごみ対策課長 | ごみ処理の基本計画や実施計画では、実際にこれから何をしていこうかというものとか、こういう事業は止めようかということは皆様方のご意見を聞いて、我々も汲み取ることができると思う。しかし、災害廃棄物処理はそうではない。我々が行政として、ここを瓦礫置き場にすると決めてしまえば、そうなる。想定される災害廃棄物もどのくらい出るか決まってしまう。確かに普通の計画とは違う。皆様方にどういう意見を聞きたいかという事は、あくまでも個人的なイメージでしかないが、市民として何ができるかという事を盛り込んでいただくことが大切だと思う。 |
| 石原委員 | この処理計画そのものが小金井市の防災計画のどの順位にどうなっているのか分からない。 |
| 小野ごみ対策課長 | 防災計画の中には、ごみ対策課は瓦礫を処理することとしか書いていない。 |
| 林委員 | 防災計画とどのように関わるかがスタートポイントではないかと思う。 |
| 小野ごみ対策課長 | 今まで、地域防災計画上、ごみは優先されてきていない。しかし、災害が発生すると必ず災害廃棄物の問題が生じる。ごみの問題として、こういう事が想定されるという計画がないと地域防災会議にも諮れないという事である。 |
| 林委員 | 例えばボランティアは、ごみ処理だけに来るのではない。この計画の中で、ボランティアの受け入れ体制はどのようにするかという話をしたときも、上位の地域防災計画があって、そ |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|----------|--|
| 岸野委員 | <p>の中での話しだ。それがないとボランティアをお願いするしかないと言っても絵に描いた餅になってしまう。</p> <p>そういう問題を出し合ってこそ、色々なものが積み上げられる。</p> |
| 岡山会長 | <p>恐らく次には雛型が出てくると思うので、それを待ってたたき台にして審議するしかないと思う。災害対策本部が立ち上がったとき、その中にいる人たちが、地域防災計画の中に組み込まれているので、廃棄物部署は瓦礫処理があるのでそこに入る。しかし、ボランティアの受付は、社会福祉協議会である。社会福祉協議会は行政組織ではないので計画の中に入らない。災害ボランティアは瓦礫処理に来る。社会協議会で受け付けて、そこから配置されるが、そこと廃棄物部署の連携が一切できていないので、どこに運び出して良いか分からないなど情報が密ではない。計画は計画だが、地域ごとにカスタマイズするのは良いと思う。より実効性があるものにするのであれば、国が決めた計画には盛り込まれていないが、事前連携するところをリストに入れておくとかそういうところは審議できるのではないか。</p> |
| 林委員 | <p>是非、実効性のあるものにするために必要だと思う。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>先ほど、道路の話が出たが、市内にも緊急輸送道路があるが、放っておくと多分瓦礫で埋まると。そういうところも、今回作る計画の中に緊急輸送道路も埋まってしまうのでこういうふう分けようという事を盛り込んで行かなくてはならない。それは、地域防災計画には入っていない。</p> |
| 石田委員 | <p>この計画は上位関連を決めていると思う。国の仕分けを意識して作るのか。一般的には、上位計画だけ作って、下位の計画はそのまま走っていく場合が多いので、考えておいた方がいい。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>我々が国や都から求められているのは、計画作りではなくマニュアル作りである。</p> |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|----------|--|
| 岸野委員 | うちの地域は高齢者が多い。5年先10年先はもっと多くなる。家が半壊や全壊となると大変なことになると思う。 |
| 小野ごみ対策課長 | 災害廃棄物がでるということは地域防災計画に載っているが、どういう規模で出て、どれだけ大変なことになるかという事や、災害時の対応にむけて、今後いろいろなことをやっていく必要があるという事を載せていかなければならない。計画を作っただけで、実際に災害を起こったときに何の役にも立たない、となっては困るので、そういう課題や問題があるということをこちらの計画に載せておくだけでも違うと思う。 |
| 岸野委員 | 市内を歩くときには、ハザードマップを確認しながらしてみようと思う。転入者などは地域の状況はわかっていないのではないか。 |
| 石原委員 | もう一度聞きたいのだが、この災害処理計画を作って、どういう目的でどのように使うのか。なんとなくわかるが、ちゃんと決めて貰わないと処理のしようがない。逆にこれを防災計画の中に入れるという目的があれば、それなりに我々も議論のしようがある。まず作って、それをどうするのかを説明して欲しい。 |
| 小野ごみ対策課長 | 地域防災計画に載っていないことで我々が想定することは山ほどある。繰り返しになるが、地域防災計画の中では、災害廃棄物の処理という事がごみ対策課に当てられているが、ごみ対策課の職員は災害廃物の処理だけではなく、避難所の運営なども任せられている。しかし、災害廃棄物が膨大に排出される中、それは無理だという事も訴えていかなければならない。私たちの計画を作ることによって、地域防災計画にも影響が無いわけではないということを訴えかけて、変えてもらうところは変えていかなければならないというための足がかりとなるようなものを作っていきたい。 |
| 石田委員 | 東京都が防災に関して作っているものを紙ベースでいただけないか。 |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|----------|--|
| 小野ごみ対策課長 | 膨大な量になるが。 |
| 石田委員 | ガイドラインみたいなものだ。都としては、各自治体とこういう関係を結んだというもので、それを踏まえてやらないとできない。 |
| 小野ごみ対策課長 | 60ページ程度のものなので、次回用意する。 今回、計画を作るのは、他市が作っているものを真似するだけでは、計画を作ることだけが目的になって、その次に進んで行かないと思っている。我々もそういう計画を作る気は初めからない。小金井市独自とまではいかないまでも、より実効性のある、また、上の計画の方にも反映できるだけの内容となる計画作りにしたいと思っているので、ご協力いただきたい。 |
| 林委員 | 今回の計画も含めて、できれば関連する計画なり、分かるようなマップを作っていただけると有り難い。例えば自主防災会などかなり色々なものに関係する。ボランティアの受け入れの問題もある。社会福祉協議会と繋がらなければならないとか、自主防災で言えば、避難時行動支援者の問題とか、地域防災も関係してくるし、そういうものとの関連があって、何を取り決めておかなければならないとか、そういうようなことが分かるマップがあれば、頭の中が整理しやすい。 |
| 岡山会長 | それは難しい。法律の立場や国の意向はわかるが、災害廃棄物の方は別枠としてついているものもあり、その組織とか関係部署なども多岐に渡っている。さらに、法律外のところまで書くのは不可能なので自分たちで入れていくしかない。 |
| 林委員 | 市の中でも、地域安全課とか地域福祉課など、ごみ対策課だけではないと思う。 |
| 岡山会長 | 小金井市の地域防災計画を参考資料としてはどうか。概要版はないのか。 |
| 小野ごみ対策課長 | 今回の計画に関わる計画は、東京都の計画と国が出してい |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|----------|---|
| | <p>るガイドラインと地域防災計画だと思う。先ほど資料として出すと言ったが、カラーコピーはできないので白黒になる。地域防災計画は膨大な量である。しかし、ごみに関する部分とかなんとなく全体が分かるような部分を次回までに用意できれば用意する。</p> |
| 林委員 | <p>法律の体系よりも具体的に我々が審議しようとしている計画が、他のものとどのように絡んでいるのか、これを運用するに当たってどういうところが調整できていないと絵に描いた餅になってしまうというところを明確にさせたい。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>水を差す訳ではないが、皆様には、今回の災害計画のほかに実施計画も作っていただかないといけないので、両方に力を入れていただきたい。</p> |
| 林委員 | <p>審議会に出てくるのは、2時間が4回でトータル8時間しかないなので、実際にはもう少し持ち帰って考えてもいいと思う。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>災害計画用に何回かプラスアルファの部分は予算的があるので、必要に応じて回数が増えてしまうかも知れない。</p> |
| 岸野委員 | <p>当面月1回になるのか。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>直近の予定では、開催は10月である。コンサルティング業者には、災害廃棄物処理計画に係る審議会には出席していただくし、別途打ち合わせもさせていただく。</p> |
| 多田委員 | <p>基本的には、地域防災計画の一部を補完する計画だと考えていいのか。</p> |
| 岡山会長 | <p>どちらかと言うと一般廃棄物処理計画の一部である。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>今回の災害廃棄物処理計画の位置づけは、小金井市一般廃棄物処理基本計画に含まれている。</p> |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|--------------|---|
| 藤田ごみ処理施設担当課長 | <p>受け入れ側の情報提供をさせていただく。先ほど岡山会長から、施設の方で災害廃棄物は計画に入っていないので受け入れられないことがあったというようなご発言があったが、新しい施設を建設している浅川清流環境組合では、災害ごみを受け入れると計画に謳っている。しかし、あくまで可燃ごみで、量的には、日野市、国分寺市、小金井市で7万2千トンくらいである。これを10年間で受け入れるという計画を立てている。</p> <p>また、新しい施設は多摩川と浅川の間合流地点にあるので、工場としては水害対策をしている。具体的には、外開きの扉にしており、焼却場で一番大切な発電用のタービンを高いところに設置している。日野市では、災害時の避難場所としても有効になる。焼却施設は井戸水なので上水が止まっても大丈夫である。ごみを焼却することで、お湯も沸かすことができる。</p> <p>受け入れ側としては、以上の準備をしているところである。</p> |
| 小野ごみ対策課長 | <p>一般的な知識として、先ほどからマンホールトイレが出てきて何故ごみなのかと思っているかもしれないが、家庭から出るし尿は、一般廃棄物なので、ごみ対策課が収集することになる。地域防災計画の中に明記されている。</p> |
| 岡山会長 | <p>小平市が作っているので、参考にインターネットで見るといい。</p> <p>では、次回に日程について事務局から願います。</p> |
| 大久保減量推進係長 | <p>まず明日の視察について再度確認させていただく。生ごみ堆肥化を行っているエンザと枝木のチップ化を行っている北進重機の視察を考えている。参加される方は、8時45分小金井市役所本庁舎駐車場に集合していただきたい。また、次回の審議会の日程であるが、10月を予定しているところだが、会長・副会長と調整の上、後日改めて連絡させていただくので宜しく願いたい。</p> |
| 波多野委員 | <p>もう一度コンサルタント会社の正式名称を教えてください。</p> |

(審議過程) 主な発言等

| | |
|------------|---------------------|
| 大久保減量推進課係長 | 株式会社日本環境工学設計事務所である。 |
| 岡山会長 | では、以上をもって閉会とする。 |